# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number:

03-257129

(43) Date of publication of application: 15.11.1991

e or publication of application.

(51)Int.Cl.

C22C 5/02 H01L 21/60

(21)Application number : **02-054610** 

(71)Applicant: MITSUBISHI MATERIALS CORP

(22)Date of filing:

06.03.1990

(72)Inventor: HOSODA NAOYUKI

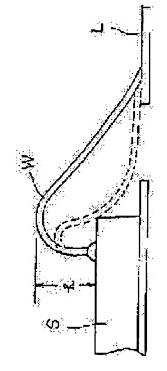
MORIKAWA MASAKI TANAKA MASAYUKI FURUKAWA KIYOSHI

## (54) GOLD ALLOY WIRE FOR BONDING OF SEMICONDUCTOR DEVICE

## (57)Abstract:

PURPOSE: To diminish the loop height of a bonding wire and to decrease the fluctuation in the height by using a fine wire of an Au alloy contg. slight ratios of specific elements as the bonding wire for semiconductor devices.

CONSTITUTION: The fine wire of, for example, 0.025 mm diameter consisting of the Au alloy contg. one or  $\geq 2$  kinds among group Ce rare earth elements, such as La, Ce, Pr, Nd, and Sm, at 1 to 100ppm, one or  $\geq 2$  kinds among Ca, Be and Ge at 1 to 100ppm, and one or  $\geq 2$  kinds among B, Sn, Ni, Fe, Co, Ir, Pb, Ti, zr, and Pd at 1 to 100ppm and consisting of the balance Au is used as the bonding wire W for connecting the semiconductor element S and an external lead L. The generation of



short circuiting by the sagging of the bonding wire W made of the Au alloy and connecting thereof to the semiconductor element S is obviated and the loop height (h) of the wire is extremely low; in addition, the fluctuation in the height (h) is extremely little and, therefore, remarkable improvement is made in the product yield of the semiconductor devices obtd. by being connected with the bonding wire W.

**DERWENT-ACC-NO:** 

1992-003617

**DERWENT-WEEK:** 

199848

**COPYRIGHT 2005 DERWENT INFORMATION LTD** 

TITLE:

Gold alloy bonding wire for semiconductor device comprising rare earth metals e.g. lanthanum, cerium, praseodymium, also calcium, beryllium, boron, tin, iron,

etc

PATENT-ASSIGNEE: MITSUBISHI KASEI CORP[MITU]

PRIORITY-DATA: 1990JP-0054610 (March 6, 1990)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO PUB-DATE LANGUAGE PAGES MAIN-IPC

JP 03257129 A November 15, 1991 N/A 005 N/A

JP 2814660 B2 October 27, 1998 N/A 006 C22C 005/02

**APPLICATION-DATA:** 

PUB-NO APPL-DESCRIPTOR APPL-NO APPL-DATE
JP 03257129A N/A 1990JP-0054610 March 6, 1990
JP 2814660B2 N/A 1990JP-0054610 March 6, 1990

JP 2814660B2 Previous Publ. JP 3257129 N/A

INT-CL (IPC): C22C005/02, H01L021/60

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 03257129A

**BASIC-ABSTRACT:** 

<u>Au alloy bonding wire</u> comprises one or more than two cerium gp. REM of La, Ce, Pr, Nd and Sm 1-100 <u>ppm.</u> in total, same of Ca, Be and Ge 1-100 <u>ppm.</u> in total and same of <u>B</u>, Sn, Ni, Fe, Co, Ir, Pb, Ti, Zr and Pb 1-100 <u>ppm.</u> in total.

ADVANTAGE - The coexisting B gp. elements homogenise crystal grain size of the wire.

**CHOSEN-DRAWING: Dwg.1/1** 

TITLE-TERMS: GOLD ALLOY BOND WIRE SEMICONDUCTOR DEVICE COMPRISE RARE EARTH METAL LANTHANUM CERIUM PRASEODYMIUM CALCIUM BERYLLIUM BORON TIN IRON

**DERWENT-CLASS: L03 M26 U11** 

CPI-CODES: L04-C10E; L04-C24; M26-B01;

EPI-CODES: U11-A08B; U11-D03B1; U11-E01A;

SECONDARY-ACC-NO:

CPI Secondary Accession Numbers: C1992-001605 Non-CPI Secondary Accession Numbers: N1992-002657

## ⑩ 日本 国特許庁(JP)

① 特許出願公開

## ◎ 公 開 特 許 公 報 (A) 平3−257129

⑤Int. Cl. 5

識別記号

庁内整理番号

❸公開 平成3年(1991)11月15日

C 22 C 5/02 H 01 L 21/60 8722-4K 6918-5F

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全5頁)

**60発明の名称** 半導体装置のポンデイング用金合金線

②特 願 平2-54610

②出 願 平2(1990)3月6日

⑫発 明 者 細 田 直 之 兵庫県三田市テクノパーク12-6 三菱金属株式会社三田 工場内

⑩発 明 者 森 川 正 樹 兵庫県三田市テクノバーク12-6 三菱金属株式会社三田 工場内

⑫発 明 者 田 中 正 幸 兵庫県三田市テクノパーク12-6 三菱金属株式会社三田 工場内

@発 明 者 古 川 潔 兵庫県三田市テクノバーク12-6 三菱金属株式会社三田 工場内

②出 願 人 三菱マテリアル株式会 東京都千代田区大手町1丁目6番1号

個代 理 人 弁理士 富田 和夫 外1名

社

明細書

1. 発明の名称

半導体装置のポンディング用金合金線

### 2. 特許請求の範囲

(1) La, Ce, Pr, Nd, およびSaからなるセリウム族希土類元素のうちの1種または2種以上:1~100ppa、

Ca, Be, およびGe のうちの 1 種または 2 種以上: 1~100ppm、

B, Sn, Ni, Fe, Co, Ir, Pb, Ti, Zr, およびPd のうちの1種または2種以上: 1~100ppm、

を含有し、残りがAuと不可避不純物からなる組成を有することを特徴とする半導体装置のポンディング用金合金線。

3. 発明の詳細な説明

[産業上の利用分野]

この発明は、半導体装置のポンディングワイヤとして用い、例えば140~180mmの低いループ高さで半導体素子と外部リードとのポンディングを行なった場合にも、特にループ高さのバラツキを看しく抑制することができる金合金線に関するものである。

[従来の技術]

同一出願人は、先に特開昭58 - 154242号公報に記載される通りの、

La, Ce, Pr, Nd, およびSm からなる セリウム族希土類元素のうちの1種または2種以 上:3~100ppm、

Ca. Be, および Ge のうちの 1 種または 2 種以上: 1 ~ 60ppm 、

を含有し、残りが A u と不可避不鈍物からなる組成を有する半導体装置のポンディング用金合金線を提案した。

(発明が解決しようとする課題)

一方、近年、半導体装置のうち、特に厚みが極端に薄いICカードや、VSOPおよびTSOP

などの薄型パッケージの管及はめざましく、これには、例えば140~180 mmといった低いループ高さでのポンディングが要求されるが、上記の従来金合金線の場合、これを薄型パッケージのポンディングワイヤとして用いた場合、ループ高さのパラツキを小さくすることができず、この結果樹脂モールド後のパッケージ表面へのループ話出がしばしば発生し、高い製品歩留りを確保することができないのが現状である。

#### [課題を解決するための手段]

そこで、本発明者等は、上述のような観点から、 特に低いループ高さが要求される薄型パッケージ のポンディングワイヤとして用いた場合、ポン ディング後のループ高さのパラツキを小さくする ことができる金合金線を開発すべく、上記の従来 金合金線に着目し研究を行なった結果、上記の従 来金合金線に、合金成分として、

B, Sn, Ni, Fe, Co, Ir, Pb, Ti, Zr, およびPd のうちの1粒または2種

に特徴を有するものである。

つぎに、この発明の金合金線の成分組成を上記 の通りに限定した理由を説明する。

#### (a) セリウム族希土類元素

これらの成分には、線の常温および高温強度を 向上させる作用があるが、その含有量が1 ppm 未 満では所望の強度向上効果が得られず、一方その 含有量が100ppmを越えると線が脆化するようにな ることから、その含有量を1~100ppmと定めた。

#### (b) Ca, Be, およびGe

これらの成分には、セリウム族希土類元素との 共存において、線の軟化温度を高め、もってポン ディング時の線自体の脆化および変形ループの発 生、さらに樹脂モールド時のループ流れを抑制す ると共に、ポンディングの接合強度を高め、さら に常温および高温強度を一段と向上させる作用が あるが、その含有量が1 ppa 未満では前記作用に 所望の効果が得られず、一方その含有量が100ppa を越えると、脆化して線引加工性などが劣化する ようになるばかりでなく、ポンディング時の加熱 以上:1~100ppa、を含有させると、この結果の 金合金線は、結晶粒径が均一化するので、低い ループ高さを維持しつつ、ループ高さのバラツキ が著しく抑制されるようになり、さらに高温強度、 ポンディング後のループ変形の有無、および樹脂 モールド時のループ流れについては上記従来金合 金線と同等のすぐれた性質を具備するという研究 結果を得たのである。

この発明は、上記研究結果にもとづいてなされ たものであって、

La, Ce, Pr, Nd, およびSe からなる セリウム族希土類元素のうちの1種または2種以 上:1~100pps、

Ca, Be, およびGeのうちの1種または2種以上: 1~100ppa、

B, Sn, NI, Fe, Co, Ir, Pb, Ti, Zr, およびPd のうちの1種または2種 以上: 1~100ppm、

を含有し、残りがAuと不可避不鈍物からなる組成を有する半導体装置のボンディング用企合金線

温度で結晶粒界破断を起し易くなることから、その含有量を1~100ppmと定めた。

(c) B, Sn, Ni, Fe, Co, Ir, Pb, Ti, Zr, およびPd

これらの成分は、上記の通りセリウム族希土類 元素と、Ca, Be, およびGe との共存において、線の結晶粒径を均一化し、これによって低いループ高さを維持しつつ、ループ高さのバラッキが着しく抑制されるようになる作用を発揮するが、その含有量が1 ppm 未満では前記作用に所望の効果が得られず、一方その含有量が100ppmを越えると、脆化して線引加工性などが低下するようになることから、その含有量を1~100ppmと定めた。(実 施 例)

つぎに、この発明の金合金線を実施例により具体的に説明する。

通常の溶解法によりそれぞれ第1表に示される 成分組成をもった溶渦を調製し、鋳造した後、公 知の溝型圧延機を用いて圧延し、引続いて線引加 工を行なうことにより、直径:0.025mを行する 本発明金合金線1~29および従来金合金線1~13 をそれぞれ製造した。

ついで、この結果得られた各種の金合金線について、線がポンディング時にさらされる条件に相当する条件、すなわち250℃に20秒間保持した条件で高温引張試験を行ない、破断強度と仲びを削定し、高温強度を評価した。

また、これらの金合金線をポンディングワイヤとして用い、高速自動ポンダにて、特に薄型パッケージに対応させる目的で、ループ高さを140~180点に低くした状態でポンディングを行ない、ループ高さ、ループ高さのバラツキ、ループ変形の有無、および樹脂モールド後のループ流れ量をそれぞれ測定した。これらの測定結果を第2表に示した。

なお、ループ高さは、第1図に正面図で示されるように、半導体素子Sと外部リードLを金合金 線Wでポンディングした場合のhをz軸測欲計を 用いて測定し、80個の測定値の平均値をもって表 わし、ループ高さのバラツキは、前記の80個の

種別							Æ	<b>ጀ</b>	:	分 組				胶	(ppi	)				
		La	Ce	Pr	Иd	Sø	Ca	Be	Ge	В	Sn	Ni	Fe	Со	Ir	Pb	Ti	Zr	Pd	Au +不純物
	1	-	1.2	-	-	-	1.5	1	2.0	1.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	残
	2	-	99.2	-	-	-	1.1	2.0	-	-	1.8	-	-	-	-	-	-	_	-	残
1	3	-	1	1.1	-	-	1.2	1.3	1.5	-	-	1.3	-	1	1	-	-	-	-	簽
	4	-	-	98.0	-	_	85.0	63.3	-	-	-	-	1.4	-	1		-	-	-	残
本	5	-	-	-	1.1	-	-	98.5	1	-	-	-	-	1.5	-	-	-	_	-	残
	6	-	1	-	-	1.2	96.1	-	-	-	_	_	-	-	1.4	-	-	-	-	残
発	7	-	. 1	-	-	98.1	40.2	80.8	25.3	-	-	-	-	-	-	1.3	-	_	<del>-</del>	聂
	8	1.0	1.5	_	-	-	8.1	10.1	5.4	+	-	-	-	-	-	-	1.6	_	-	幾
明	9	-	1	1.1	1.5	1.8	32.8	84.6	32.0	_	_	-	-	-	-	-	-	1.1	<u> </u>	残'
	10	42.1	_	-	55.3	-	1.4	2.3	1.8	-	-	-	-	-	-	_	-	-	1.5	技
金	11	-	1.2	_	-	-	1.5	-	2.0	98.1	-	-	-	-	-	-	-	_	-	銭
	12	-	99.8	-	-	-	1.1	2.0	-	-	97.6	-	-	-	_	-	-	-	-	聂
숌	13	-	-	1.1		-	1.2	1.3	1.5	-	_	93.2	-	-	-	-	-	-	-	长
	14	-	-	98.3	-	-	35.2	63.6	_	-	-	_	97.0	_	_	-	_	-	-	媄
金	15	-	-	-	1.1	_	-	98.4	-	-	-	-	~	94.6	_	-	-	-	-	銭
	16	-	-	ı	-	1.2	96.3	-	-	-	-	_	-	-	<b>\$3.3</b>	-	-	-	-	贱
線	17	-	-	•	-	98.0	40.2	30.1	25.0		-	-	_	_	_	99.0	-	-	-	践
	18	1.0	1.5	1	_	-	8.0	9.8	5.3	-	-	-	-	-	_	-	96.1	-	-	贱
	19	-	-	1.1	1.5	1.8	31.8	34.7	82.4	-	-	-	_	-	-	-	-	98.2	-	践
	20	42.0	-	-	55.1	-	1.4	2.3	1.8	-	1	-	-	-	-	-	-		97.3	残
	21	98.2	-	-	-	-	-	1.5	-	5	7	8	-	-	_	-	_	-	-	幾

第 1 表の

														_								
Ħ	81)							成 5				組		氐	(pp:		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·					
		La	Ce	Pτ	Nd	Se	Ca	Вe	Ge	В	Sn	NI	Fe	Co	1 r	Pb	Ti	Zr	Pd	Au	+不乾物	
*	22	-	1.2	-	-	-	1.5	-	2.0	-	-	-	35.2	31.6	-	-		-	-		残	
発	23	-	99.0	-	_	-	1.1	2.0	-	-	-	-	-	-	20.1	24.3	19.8	14.6	15.1		媄	
明	24	-	_	1.1	-	-	1.2	1.3	1.5	1.8	5.2	5.7	-	-	-	-	-	-	-		铥	
	25	_	-	98.3	-	-	35.4	63.0	-	_	1.1	1.3	1.5	2.8	-	-	_	·-	-		銭	
金	26	_	_	_	1.1	_	_	98.2	-					1.1	1.1	1.4	1.3	1.1	1.4		媄	
合	27	-		_	97.0		_	-	97.0	1.4	13.0	1.2	1.4	1.6	1.5	12.3	1.1	1.4	1.3		뚌	
金	28	<u> </u>	· _	_	-	1.2	96.2	_	_	14.3	19.2	15.1	10.3	-	-	_	_	-	-		残	
練	29					98.5	40.3	30.1	24.3	_	-	-	_	13.3	18.1	9.1	18.0	12.2	18.1		钱	
	-					36.0	1.5	-	-		<del>-</del> -	_	-		_		-	-	-		妊	
	1	1.1		-					<u> </u>	_	-	<del>                                     </del>	-	<del>  </del>	-	<del>  _</del>	-	<u> </u>	-	-	线	
	2	98.2	_				-	1.5	_	_	├					-	_	<del>                                     </del>	<del>  _</del>		残	
	3	_	1.2	-			1.5	-	2.0			_	<u> </u>	<u> </u>	_		├	├	-			
従	4	-	99.4	_		_	1.1	2.0				<u> </u>	_	<u> </u>			_	_			残	
来	5	_		1.1	-		1.2	18.1	1.5	_				<u> </u>	<u> </u>	_	<u> </u>	ļ. <u> </u>			矮	
金	6	-	-	98.4	-		35.2	63.4	_	_	_		<u> </u>	-	_	_		<u> </u>	-		残	
숌	7	-	-	-	1.1	-	-	98.5		_	_	_	_	<u>  -</u>	<u> </u>	_	_		_		銭	
金	8	-	-	-	97.2	-	-	-	97.7	_	-	-	-			-	_	_	_		残	
娘	9	-	-	-	-	1.2	96.0	-	-	-	-	-	-	-		_	_	_	-		贬	
•	10	-	-	-	-	98.3	40.0	30.1	24.8	-	-	-	-	-	-	-	-		-		残	
	11	1.0	1.5	-	-	-	8.1	10.2	5.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		矮	
	12	<del>  -</del>	-	1.1	1.5	1.8	32.0	35.4	32.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		技	
	13	42.3	-	-	55.1	-	1.4	2.3	1.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Π	残	

第 1 表の2

		高温破	高温	ループ	ループ高さ	ループ	ループ			高温破	高温	ループ	ループ高さ	ループ	ループ
種	別	断強度	伸び	高さ	のバラツキ	変形の	流れ量	種	別	断強度	伸び	高さ	のバラツキ	変形の	流れ量
		(g)	(%)	(4711)	(3σ:μm)	有 無	(tan)	<u> </u>		(g)	(%)	(tom)	(3σ:μm)	有 無	( <i>µ</i> m)
	1	8.6	2.2	172	16	無	74	本	22	11.7	2.1	158	13	無	15
	2	11.3	2.1	159	15	無	25	発	23	14.5	1.9	153	13	無	14
	3	8.8	2.2	175	18	無	71	明	24	9.1	2.2	170	17	無	45
本	4	13.1	2.0	148	16	無	19	金	25	13.5	2.0	147	14	無	18
	5	9.5	2.1	179	19	無	55	合	26	10.5	2.1	177	18	無	38
発	6	15.2	1.9	145	15	無	15	金	27	12.1	2.1	149	16	無	22
	7	14.8	2.0	147	15	無	17	線	28	15.7	1.9	141	11	無	12
明	8	10.0	2.1	163	17	無	35	***	29	15.2	1.9	142	14	無	12
	9	14.6	2.0	153	14	無	21		1	8.0	2.4	179	28	無	77
金	10	11.3	2.1	155	15	無	24		2	11.5	2.1	159	24	無	21
	11	11.9	2.1	150	11	無	13		3	8.3	2.2	174	24	無	76
合	12	12.4	2.0	152	12	無	15	従	4	11.3	2.0	160	25	無	26
	13	11.0	2.1	163	14	無	81	来	5	8.6	2.2	177	28	無	73
金	14	14.0	2.0	144	13	無	14	金	6	13.0	2.0	150	26	無	19
	15	12.5	2.0	171	16	無	17	合	7	9.5	2.1	180	30	無	56
線	16	15.8	1.9	141	11	無	12	金	8	11.5	2.1	152	24	無	23
	17	15.4	1.9	143	13	無	11	線	9	15.2	1.9	146	22	無	15
	18	14.0	1.9	152	13	無	19		10	14.8	2.0	164	22	無	17
	19	15.6	1.9	145	12	無	14		11	10.0	2.1	155	23	無	36
	20	12.8	2.1	148	14	無	17		12	14.6	2.0	154	21	無	22
	21	11.9	2.1	155	14	無	20		13	11.3	2.1	155	22	無	25

第 2 表

## 特別平3-257129(5)

ループ高さ測定値より標準偏差を求め、3σの値 で表わした。

また、ループ変形の有無は、ポンディング後の 金合金線 W を顕微鏡を用いて観察し、第1回に点 線で示されるように金合金線が垂れ下がって半導 体素子Sのエッジに接触(エッジショート)して いる場合を「有」とし、接触していない場合を 「無」として判定した。

さらに、ループ流れ量は、樹脂モールド後の金 合金線Wを直上からX線撮影し、この結果のX線 写真にもとづいて4つのコーナー部における半導 体業子と外部リードのポンディング点を結んだ直 線に対する金合金線の最大膨量を測定し、これら の平均値をもって表わした。

#### (発明の効果)

第1表および第2表に示される結果から、本発 明金合金線1~29は、いずれも140~180㎞の低 いループ高さでのループ高さのバラツキが、従来 金合金線1~18に比してきわめて小さく、かつ従 来金合金線1~13と同等の高い高温強度をもち、

していることが明らかである。 上述のように、この発明の金合金線は、これを 半導体装置のうち、特に低いループ高さが要求さ

さらに同じくループ変形の発生がなく、樹脂モー ルド時のループ流れ量もきわめて小さく、現在許

容最大値といわれている100㎞より小さい位を示

れる薄肉パッケージのポンディングワイヤとして 用いた場合、ループ高さのバラツキがきわめて小 さいので、樹脂モールド後のパッケージ表面に ループが露出することがなく、さらに高い高温弦 度をもつと共に、ポンディング時のループ変形の 発生がなく、かつ樹脂モールド時のループ流れも 小さいので、タブショートやエッジショートなど の不良発生も著しく抑制されるようになることと 合まって、製品不良が激減し、歩留りの飛躍的向 上をはかることができるなど工業上有用な特性を 有するのである。

### 4. 図面の簡単な説明

第1図は半導体装置のポンディング状態を示す

正面図である。

S … 半導体素子

L…外部リード

W···金合金線

出 願 人 : 三菱金属株式会社

外1名

